

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

〔取り組んでいきたい項目〕

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

〔取り組んでいきたい内容〕

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

〔特に力を入れている点・アピールしたい点〕（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（No.1からNo.87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（No.88からNo.100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム 白梅の里
（ユニット名）	（東館）
所在地 （県・市町村名）	熊本県宇土郡不知火町亀松542
記入者名 （管理者）	施設長・管理者 岡田 弘明
記入日	平成 19 年 6 月 7 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	1地域に根ざし開かれたホームづくり2、ゆったりとした介護空間、安全、安心介護の安定づくり3、地域生活の継続性と地域関係強化4、職員相互の尊敬と支えあい協力し合う職場づくり。	○	地域推進会議の取り組みと共に地域の状況や互いの情報の交換を継続しとり組んでいるが、さらに密に地域にとけ込んでいく工夫をしていく。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員採用時、又教育の中で理念を伝え共通理解をするようにしている。又定期勉強会でも実践につながっているかどうかの確認をしている。	○	継続し地域の方、御家族の方のご意見を取り入れ又入居者様の意向を尊重し日々精進していく。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	御家族には家族会やホーム便りで伝え見学者の方にも伝えしている。推進会議でも理念を伝え理解して頂くよう努力している。地域住民の方へもイベント等を通して当事業所の理念が浸透していくよう折りにふれ伝える努力をしている。	○	継続し伝えていくと共に開かれたホーム又介護の発信元としての役割を担っていくにはまだ努力の必要があると感じている。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	入居者様と共に散歩や買い物に行き挨拶を交わしている中で馴染が出てきつつある。野菜や花を頂き、入居者様の手作りの箸置き、人形をお返しし交流を図っている。玄関先で日光浴中に話しかけて頂く事もある。	○	まだ敷居が高いとのご意見を頂くことがあるので近隣の、退職された看護師さんや、手芸、話し好きの方などが気軽に立ち寄って頂けるような雰囲気作りをしていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の清掃作業、幼稚園のバザー収益金の寄付、ボランティアや小学校、中学校との交流を多くとり入れている。老人会の行事等は推進会議で依頼している最中である。又近隣3公民館、老人会に、グランドゴルフ用トロフィを寄贈した。	○	リサイクル活動への参加等、入居者様の心身の状況等考慮しながら積極的に進めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	一人暮らしの高齢者に災害時の避難場所としての受け入れをしており社交場としての役割をしている。梅ちぎりを入居者様にして頂き梅酢づくりの製造とし健康の増進なると好評を得ている。推進会議中に認知症の理解の提案をしている。	○	これからも災害時等困った状況に入られる場合地域の民生委員の方々のご協力も頂きながら大いに活用していただけるよう努力していきたい、地域高齢者の暮らしに役立つ話し合いは不足している。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	定期的な全体勉強会に加え、各館での自主的な勉強会の中に組み入れをしている。入居者様中心のケアをしているか、外部評価により、自分達が求められているものは何か自らを振り返り具体策への検討をしている。	○	外部評価、特にやれていない部分への指摘は宝であり、一つ一つ丁寧な説明を職員に伝えていくことで深まってきているように思われる。多くの意見アイデアを取り入れ地道に取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域への取り組みの不十分な所のアドバイスを受けると共に学び合える関係作りを心がけている。報告をすると共に貴重なアドバイスは実行へ移し又次の取り組みへとつないでいる。	○	運営推進会議の開始は、地域をよくご存知の方又関わりの深い方に来て頂けるので、とても良い取り組みだと思う。来て頂けるばかりでなく、こちらから出向くという姿勢も努力していきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	困難な事例や当事業所でのサービスの向上へのアドバイスを頂く等のやりとりを行なっている。		業務的なことに偽りがちにならないよう、市町村と共にサービスの質の向上、当事業所からの取り組み又当事業への協力依頼などがスムーズにできるよう努力していった。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員の実践者研修資料を配布職員に通達した。又機会がある度に職員の理解を深められるよういつでも参考にできるよう資料キャビネットに配置している。		御家族からの相談があった場合対応するようにしている。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定例の勉強会毎に虐待防止関連法について、事例を用い虐待による人権の侵害についての理解を深めると共に、言葉の使い方、介助支援方法について日常的に指導注意をしている。		情報誌(新聞等)により、虐待をした側又された側又その後の対応について勉強すると共に予防に努める。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約書に基き入居者様と御家族に十分に時間をとって説明すると共に不明な点、不安な点わたずねている、解約の際にも十分な時間を取り説明を行ない同意を頂くように注意を払っている。		契約時にかかわらず、入居後不明な点がないかどうか、不安な点はないかどうかの声かけをしている。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関口に意見箱の設置をすると共に、気軽に要望を頂けるような職員の場合雰囲気作りを心がけている、苦情は宝と受け止め真摯な態度で対応し節対応できる部分は職員へ通達対応している。		すぐに対応できない場合その説明と経過を御家族、御本人様お伝えできる限り御要望に添えられるような対応をしている。個人記録にも経過の記録をしている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、白梅の里便りを発行し、日常生活の写真も載せながら伝えている。職員異動は事前に通知、金銭管理は毎月御家族にチェックして頂くようにしている。健康状態は面会時又状態の変化のあった場合連絡をとるようようにしている。		御家族の希望により、熱発等あった場合連絡をしてほしいとの希望もあるので対応の仕方も含め状況の報告をしている。暮らしぶりについても御家族と御本人の希望に添った暮らしの工夫をしているが、まだ継続しコミュニケーションを密にしていきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族の意見は、率直に頂いている、面会時の声かけに心がけ言葉の裏にある家族の思いに耳を傾けるようにしている、意見は個人記録に残すと共にすぐに改善できる点には即対応し報告するようになっている。		苦情は宝とし感謝の気持ちをもってうかがうようにしている、即対応出来ない部分は経営者も含め十分な時間をとり話しをうかがい説明、経過報告を通し要望に添った結果がだせるよう努力している。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例勉強会の中で困難な事例や設備等に対する意見を出すよう機会を設け、即対応できる分は反映をさせている。		意見の中には十分な考慮が必要な場合があり、重ねて話し合いをし最善の方法を生み出す努力をしており。又、その間の対応について職員のアイデアで試行錯誤し最善策を図るよう工夫している。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	努めている。		人員不足の解消と職員教育に努め柔軟な対応ができるよう努力している。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	配慮している。異動のある場合なじみの関係がくずれないように職員の各館への交流を意識してしている。	○	各館での職員の情報の交換によりさらにダメージを防ぐ配慮がなされると思われるので継続していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は各人ができるようブロック研修会、勉強会へのお知らせを各職員に通知している、研修内容は、復命報告書に記述し回覧で回したり、発表の機会を設ける。	○	定期的に部外者に入って頂き、気づきをアドバイスして頂く等の取り組みがさらに必要と思われる。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ブロック会議、研修等で他事業所の取り組みを聞いたり、当事業所の取り組みの情報の交換をしている。	○	実際交換だけでなく、実践内容の交換、又アドバイスの取り入れが必要。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	認知症対応への困難さをかかえた職員へはアドバイスや励ましを、又ストレスがたまった職員には休暇をとって頂き、疲れがたまらないよう努力している。	○	職員が自由な発想や意見の出しやすい雰囲気、又休憩時間の確保の取り組みも必要。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の個々の取り組み実績について職能評価をしている、運営者も職場に顔を出し利用者との時間の共有をはかるよう工夫している。		職員の意見、相談に対して対応するようにしているが、問題の整理、達成度のチェックをしていくことで安心して働ける職場作りに取り組む工夫が必要。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面談時から、御本人様の生活状況や心身からくる不安や思い、希望、御家族からの情報を含め理解するよう工夫している。		お一人お一人への声かけは、常日頃から職員からするよう、又心情をつかめるようなつながり関わりをしていくよう努力する。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	アセスメントで聞きとりをし施設内の見学を含め、ゆっくり時間を作り十分な聞き取りをするようにしている。		アンケートで普段遠慮され言い出しにくいことをききとれるよう努力している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期段階では環境の変化に御本人が馴染めるかどうかの心配をされる御家族にも介護の時間を離れゆっくりして頂き考えて頂くことも必要と考えるので、御本人の生活習慣の尊重をしながら少しずつ進める場合もある。		地域密着型であるため少しの支援があれば継続した日常生活が営めるケースもある、御家族の必要とするサービスへの見極めで他サービスの利用を包括センター等他の関連事業との連携を密にしていこう努める。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	納得には時間のかかる場合もあるので御家族の協力、ご理解を頂きながら御家族と共に過ごす時間を作って頂き御本人に安心して頂けるよう努力している、共に昼食をとって頂いたり、昔なじみのおやつを共に作って頂くこともある、その中で、生活習慣の情報を頂く工夫をしている。		御家族の生活も考慮し、外出、外泊の計画を相談しながら進めていく。又電話、手紙のやりとりも相談しながら進めるようしている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常の清掃、洗濯、炊事等、共にして頂く体調もあるので強制せず、又して頂いた場合は感謝の言葉と共に、御本人から温故知新で昔ながらの知恵を頂くことも多い。	○	業務中心になり、本人の意志を気づいてさしあげられないことがないかどうかのチェック項目を作成し取り組むようにしている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	場合により遠方に御家族がおられることもあるので、電話連絡や里便りで現在の暮らしぶりや伝え、共に喜び合える関係をつくるようにしている。	○	御家族の生活環境もあるが御本人様の健康状態はいつも心配されているご様子うかがえるので、面会時等で伝えるよう努力しているがまだ十分とはいえない。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と御家族との関係の理解に努め絆を大切にし、行事・誕生日会等へのお誘いをし、ご協力を頂いている。	○	御本人の機能低下により、手紙の書けない方もおられるので、代筆等まめに伝えられるよう職員も心がけることが必要と考えている。又その計画もしている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場、又馴染みの人への支援を感じながら、できていないのが現状	○	入居者様から、この方とこの場所へ行きたいという要望を頂くことがあるが遠方のため行けないことがあり、月1回でも対応できないか検討中。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	関係作りのため昔共通の歌や、共通の趣味、又2ユニット間での交流等でよりよい関係作りに努めている。	○	お世話好きの方もおられるので、手芸等を通しボタンつけ、カバー作りなどを依頼することがある、互いにお世話になったと喜ばれる場面作りの工夫をしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後も面会へ行ったり、行事への参加をお誘いすることがあるが、継続的にお手紙等でその後の御家族の健康状態など気づかうようなことができていない。	○	契約終了後御本人や御家族が孤立されないよう継続的な関係が保たれるよう検討している。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で声かけし記録するようにしている、又どうすれば要望への対応が可能か本人の意向を重視し御家族と相談しながら計画、検討している。		趣味、食への趣向等、その方に応じた工夫をしている、又暮らしにおいても気持ちを重視しながら引き込まれないよう声かけや聞きとりをしながら自然に参加されるよう工夫している。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初期のアセスメントに加え、面会時に御家族から聞いたり御本人に伺うようにしている。		生活環境は、自ら暮らしやすい環境を作り出される工夫をされておられるので、見守りをするようにし、転倒等のリスクが考えられる場合御本人と相談するようにしている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	24時間シートの活用をするとともに、ご利用者1人、1人の生活リズムを理解し、行動や小さな動作を、感じ取り職員と一緒に会話・お茶を飲んだりする事で心身の状態、全体像を把握している。		生活、及び心理面の視点、出来ない事より出来る事に重点をおきその人らしい生活リズムのとり方を、暮らしの日々の中で現状把握し、今後の検討に努めていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	御本人、又御家族(来里された際)日頃の関わりの中で、要望・意見を聞き反映されるよう努めている、アセスメント及びモニタリングを職員全員で行なうようにし意見の交換等行ない反映につなげている。	○	今後も御本人、御家族からの御意見を伺い、又職員間の意見交換、カンファレンスの機会を増やし、気づきを大切に御本人がより良く暮らされるよう支援、検討を行なっていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	アセスメント、及びカンファレンスを行ない意見の交換、又職員の記録する事により、御利用者の状態の変化や状況を御家族・御本人の要望を取り入れながら介護計画の遂行状況、効果など評価出来るよう努めている。	○	御本人、御家族からの新たな要望及び介護計画策定時に柔軟、又臨機応変な対応が出来る計画を作っていきたい、関係者の方々が話し合える機会を作りその都度気づき、意見を大切に、より良いアイデアに配慮を行ない毎月、新鮮な目で見直していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、食事、水分量、排泄等身体的状況、及び日々の暮らし方の様子、変化等を記録し確認して共有を行なっている。	○	個人記録にあたっては、職員各個人差が有り、共有はしておりながらも介護計画への深い理解等見受ける事が少ない為、今後ミーティング等でその個々の対応により向上へと検討していく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	御本人の要望、及び御家族が来里さらた際、御家族の状況、要望に向き合い又居住環境や、馴染みの職員機能を生かし関係を大切にしながら支援している。	○	今後も馴染み関係を大切にしながら事業所の多機能性を生かし、アンケートに配慮を行ない、地域の方々の声を大事にし、関連性を保ち支援していく。(密着していく事)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域生活を継続していく為、御本人及び地域への方々、周辺施設への働きかけ、協力を呼びかけするようしている。	○	今後、地域の方々施設の周辺の働きかけを良し必要としている為考慮している。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	御本人の要望、及び御家族の意向を伺い、支援行なわれるよう、配慮している。	○	必要に応じ他のサービスを受けられるよう支援に努めている為、今後の検討課題でもある。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域での連携を図り、工夫・支援に努めるようにしている。	○	今後、連携を図りながら進めていく。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎日の心身状況、状態を把握し職員との連携(申し送り等)行なうとともに、かかりつけ医院への希望を御本人、御家族に伺い医療機関の関係を密に行っている、又利用契約時に、その旨を説明し、同意を得て通院介助を依頼している。	○	緊急時の対応にも配慮し、受診の際御家族の協力も得て、又医療機関からのアドバイスを頂き即対応できるよう関係を結び、事業所としても支援している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	御家族、又職員の話しや申し送り等を伺い、かかりつけ医院・提携医療機関との連携を図られるよう努めている。	○	提携医療機関からの診断情報及び指示・助言を受けられるよう支援を行なっている。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員を配置しているので身体面、又健康管理維持を保たれるよう支援を行なっている。看護師と医療機関との連携がとれる体制を確保し又不在時、アドバイスを受けながら、御家族に連絡し安心されるよう心がけている。	○	緊急時の対応としても即対応できるような体制作りを行なうとともに職員の判断対処行なえるよう記録をとり、職員間・医療機関との確実な連携に努めている。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、管理者及び職員が見舞うようにしている、又御家族、病院の医師、医療機関との連携状態、状況を伺い話し合いを行ないながら回復期又退院支援へと努めている。	○	御家族、医療機関との話し合いを行ない、御本人の入院におけるダメージ・ストレスを軽減行なえるよう努め退院計画に結びつけ支援している。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	御本人又御家族の終末期に対する対応指針を定めかかりつけ医院又医療機関等の医師との関わりを保ちながら支援に配慮している。(要望及びインフォームドコンセントを含む)	○	今後も話し合いを通じ御本人、御家族の気持ちを大切に配慮し支援へとつなげていきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	御家族、御本人の意向を踏まえ安心して、納得される最期が迎えられるよう医療機関を密にして連携がはかられるよう配慮している。(インフォームドコンセントを含む)	○	御本人の気持ちを大切にし、家族との話し合いを行ない終末期を過ごして頂けるよう検討中。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	御本人の環境及び暮らし方の変化によるダメージ及び継続性が損なわれないよう工夫している。	○	他の事業所に移られた場合を考慮し、必要な情報を提供し連携を図られるよう検討中。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの確保は、採用時に基本的に徹底している、日々自尊心等、尊重しながら介護や言葉かけ等精進している。	○	御利用者の尊厳と権利を守る為、職員一同一貫した勉強会、ミーティングの折りに意識向上を図るとともに他の家族、外来者に対してもプライバシーを配慮している。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	食事・入浴・更衣(衣類の選択)等、行事への参加の声かけに心づかいし決定して頂けるよう配慮している。(おやつ・飲み物等)	○	御利用者に合わせて声をかけ、意思表示が困難な方には表情を伺いながら細やかな事でも、日常の中で選択肢されやすいよう支援をしている。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人の体調に配慮しながら、その日その時の御本人の気持ちを尊重し、御家族が来里時や職員とも心ゆくまでお話しを楽しみ、御利用者のペースにそって見守りながら一緒に生活への支援に心がけている。		1人1人の生活リズム、その日に御本人の御希望に添い柔軟な支援を行なわれるよう努めている、日々の中で職員同志の工夫も行なわれている。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	御本人の希望に添い、整髪や衣類の選択、整容への支援を行なっている、又行事等日頃からもおしゃれを楽しんで頂けるよう配慮している。	○	職員も一緒におしゃれを楽しみ節度はわきまえて、御本人の好み意向に応え支援を行なっている、御家族の協力も有り行きつけの美容院を利用されている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューについては、御利用者の要望を受け入れながら又趣好・症状によって考慮し、献立に工夫している。旬のものなど御家族から頂き季節感を出し一緒に調理盛り付け等入居者様と一緒にしている。	○	野菜・果物・食材について、御利用者に向い、旬のものを手順、盛り付け等職員と一緒に話しをされながら又食事時も楽しみを持ち食卓を囲まれるよう努めている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒・タバコは好みの方はおられません。飲み物は、御本人の趣好の把握するようにしているが、制限のある方には注意している。おやつは手作りのものを一緒に作る事で喜ばれている。		食を通じ、おやつ等にも要望を取り入れ季節感を職員と一緒に話しをされる事により、追憶され楽しみながら食事をさせて頂くよう支援している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	時間及び習慣を把握し、トイレへの誘導・排泄への催しを行っている、1人1人のサインを職員が把握するとともに自尊心を傷つける事のないよう声かけにも配慮し、気持ちよく排泄して戴けるよう努めている。	○	環境整備にも努め、清潔に利用して頂けるよう職員が心がけている、ナプキン・汚物等の後始末に際しても配慮している。(排泄物のチェック及び申し送りにも確認し記録している)
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1人1人の意向を伺い、時間又入浴剤の要望を取り入れゆつくりと入浴時を楽しんで頂けるよう支援している、入浴できない時は、足浴・足マッサージ・清拭等にも支援している。		仲の良い方同士は一緒に、1人1人の気持ちや習慣にあわせた工夫、支援を行なっている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	御利用者の体調及び日中の疲れ具合(入浴・外出・人との交流)又生活習慣等を配慮し、就寝に向けてリズムが安定するよう工夫し、眠れない方には、温かい飲み物や会話をしてあげたりして配慮している。	○	眠れない御利用者については、原因を見極めてその方の本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズム作りに配慮アプローチに努めている。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	昔、得意とした事に発揮して頂いている、畑仕事・習字・編み物・折り紙・料理・漬物づくり(梅酢漬け等)掃除・花を育てる・散歩等お1人お1人グループでの楽しみをし支援している。	○	今後も楽しみを増やして頂きながら又楽しみ事等を作り出す職員の働きかけも重点とし、遠出の外出、地域の行事等の参加にも配慮し、その方の役割楽しみへの把握に努めていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て又御本人の要望を伺い事業所に管理されている方でも外出時、御自分で支払って頂けるよう配慮している。		今後、お金が有る安心感、満足感が得られるよう検討していく。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	御本人の体調、気分、要望に応え季節を感じて頂けるよう、支援、配慮している。	○	御本人の要望に添えるよう、今後も検討していく。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	御本人の要望を伺い、計画を立て支援に努めている。	○	職員の勤務等の調整を図りながら検討していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	プライバシーに配慮を行ない、内容が漏れないよう注意し家族・友人・知人に電話しやすい雰囲気づくり、又日常的に手書きをして頂くよう支援している。		公衆電話を備え、自由にかけてられるようにしている、手紙についても配慮し時折代筆する事もある。年賀状等、御本人の要望に応えるよう支援している。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも面会しやすいような雰囲気作りをしている、御親戚の方の御面会も多くゆっくりと御本人、御家族の方との食事にも配慮し召し上がって頂けるよう努めている、お泊りの際も気兼ねなくすごして頂けるよう支援している。		御本人、御家族、御親戚の方々にゆっくりと過ごして、頂けるようお泊り、お食事の配慮を行ない、御本人の作品されたもの、写真、行事への参加の様子等職員ともお話しされ安心され事が多い。訪問時間は決めていない。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定例の勉強会を行ない心身面の拘束という事がなぜ弊害するのかを認識し、理解してもらいその日のケアを振り返り人権を守るという立場も理解を深め思いやりのケアに努めていく事を絶えず日々の暮らし、又申し送りにより点検、確認支援している。		ミーティング等を開き、又申し送り等にも、人権を守る立場として、拘束の弊害を認識して、御利用者の立場を考慮している、又思いやりを持つという事を常日頃から配慮、心がけている。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	御利用者の所在確認、又外出の目的精神面の安全が図られるよう職員が見落とさず見守り連携プレーにて支援している。日中鍵をかけずに、自由な暮らしに努めている。		運営者及び全職員にて、鍵をかけない工夫をし、精神面の安全が図られるよう、御家族との相談、地域の人にも理解を求め声かけ連絡等を配慮し安全面にも取り組んでいる。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は、職員間の見守りや声かけ1人1人に合わせて時間帯を通し、声をかけたり訪室にて会話やサインを察知し、その都度対応している。昼夜共に見守りやすい位置について配慮する。		昼夜通し、御本人の状態、気持ちを大事にし安全面に考慮、工夫することに努めている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	活動意欲が触発されないよう危険な物品(保管管理が必要な物)使用に際し注意必要なもの等は分け、管理している。	○	今後も、保管及び管理面に注意をし危険のないよう又触発しないよう考慮し取り組みをしていく。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	御利用者1人1人の状態から予測される危険を検討し、未然に防ぐ事に取り組んでいる。転倒に関しては、状態の変化等把握し申し送り及び記録を行ない見守り注意している。又ヒヤリハット書や勉強会でも活用日々注意している。	○	1人1人のリスク及び危険の検討を行ない事故防止に努めている。職員同志共有の意識を持ち徹底する事に努めている。事故の再発防止については、状況に応じて想定される事故を検討、又防止に取り組む。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	対応については、状況に応じ、日々連絡ノートの確認と対応の確認、かかりつけ医院・看護師と共に全職員が支援できるよう指導されている。	○	御利用者の身体状態の急変及び事故発生時にも慌てず、確実かつ適切な行動がとれるよう周知徹底を図っている。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議での協力等の呼びかけ、地域の方々への連携を図られるよう努めている。	○	今後、地域の方々への呼びかけ会議への参加等配慮し働きかけを行なっていくよう検討中。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	御利用者、1人1人に起こり得る、リスクについて把握しており、家族に対して対応策についての説明をしている。抑圧感のない暮らしの支援をしている。	○	玄関の施錠を希望される御家族もおられるが自由な暮らしの大切さを事業所の取り組みを、丁寧に説明し、理解を得られよう配慮している。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	御利用者の日頃の体調を把握し、又食欲・顔色の様子等に変化があり気づいた時は、職員間の申し送り、連携し管理者に報告、又記録し状況では医療受診へと連絡している。	○	御利用者の普段の状況を把握しており変化時は、管理者、職員間の連携を図り報告、共有しながら対応している。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬の(目的・用法・用量・副作用)を把握できるよう解りやすく薬剤の早見シートを用意したり、状況の変化をチェックし記録を行ない、御家族又かかりつけ医院に連絡している。	○	処方箋のコピーをケース毎に整理し職員が内容を把握できるようにしている。服薬時本人に手渡し確認を行ない又薬の処方変更があった際申し送り又記録して、状態によっては看護職員に協力又医療機関との連携を図っている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防に向けて食事、おやつに食物繊維質の多いものを取り入れ水分補給運動への促がしをしている。下剤使用については個々の状況に合わせた内服使用を行ない、排便の記録をしている、自然排便を促がしている。		食材の工夫運動の働きかけ、自然な排便が出来るよう取り組んでいる。薬にむやみに頼らないようにしている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の歯磨き、就寝前の入れ歯の洗浄とうがい薬でのうがいなどで口腔内の清潔を保てるよう支援している。		1人1人の習慣に配慮しながら御本人の手の届かない部分の支援をしている。清潔保持に努めている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	御利用者の要望・意見を取り入れながらバランス等考慮し個別に柔軟な対応をしている、食事、水分の摂取状況をチェックし、記録を行ない職員間にて情報を共有している。疾病、好みのものに配慮し、飲食量の低下を防いでいる。	○	1日全体の事を考慮、カロリー又飲食量のチェックを行ない低下等ならないよう個々の食に対しての様子を把握し、職員間の連携、御家族にお話を伺い食生活を様々な面から支援している、身体状況に応じDrの意見も取り入れている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関して情報を収集し、早期発見、早期対応に努めている。御利用者、御家族に同意を頂き職員共にインフルエンザ予防接種を行なっている。職員の手洗い、うがいを徹底し御利用者、御面会の方にも協力依頼している。	○	感染症に対する予防と早期発見、早期対応をできるようにしている。マニュアルを作成し勉強会を通し全職員にて、予防対策に努めている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所及び調理用具は、消毒液や日光消毒等により清潔保持を維持している。職員間の連携を図り冷蔵庫内の点検、掃除、食材の新鮮度、賞味期限を確認し過ぎた物は処分する、新鮮で安全な食材を使用するよう心がけている。	○	調理器具、用具は、消毒を行ない清潔さ衛生面に気をつけ、冷蔵庫内の点検、掃除、食材の確認に配慮し、食材の在庫表もチェックその都度確認、買い物は買いだめせず必要な食材を買い残らないよう衛生面、新鮮面をその都度チェックしている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に御利用者の作成された作品、花などかかせないようにしている。玄関先にプランター、ベンチを置き季節感を感じて頂けるよう配慮し、テラスにも丸テーブル、イスを置かれ花壇、畑を眺めながらのティータイムも配慮している。	○	御利用者の暮らしの場として案緒感を持って頂けるよう又御家族地域の方々との意見、感想を参考にし安心して出入り立ち寄られるよう工夫している。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節によって模様替えをし、御利用者の意見を取り入れながらレイアウトしている。季節の花、緑はかかせないようにしている。浴室は、ゆず湯、菖蒲湯他、季節の花びらを浮かせながらゆっくり入って頂けるようにしている。	○	共用生活空間(玄関・廊下・居間・台所・食堂・浴室・トイレ等)は安らぎ、居心地よく過ごして頂けるよう、自宅の延長として、その人らしくすごして頂けるよう配慮し、生活感、季節感に工夫、外来者の感想及び気づかれた点を考慮し日々努めている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓の横にソファを置き、好きなテレビを観られたり、趣味の手芸をされたり出来るスペースを作っている。	○	共有空間で他の人の気配りを感じながらも1人で過ごせる居場所作り、又御利用者配慮、環境づくりを心がけている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具、好きな動植物を置いて頂きゆつくりとしたプライベートなお部屋作りをされ過ごされている。	○	御本人の意向に応じ、持ち物等、馴染みの物を活かしてその人らしく過ごされるお部屋作りに支援している、又御家族の方にも来里時、相談・協力頂いている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	フローアは、清掃や一定の時間帯に換気を行なっている。冷暖房は常温の±5℃を目安とし、柔軟に対応出来るようにしている。臭いは消臭剤等にあまり頼らず清掃や清潔に心がけている。	○	御利用者に快適に過ごして頂けるよう臭い換気等、室温、温度調整に配慮しお1人お1人の状態を伺い支援している。精神面が落ち着かれるよう工夫に努めている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	御利用者の現在の状態に応じて、対応し、シンク、調理台の高さ、手すり、浴室、トイレ、廊下及び自立を意識した工夫をしている。段差等安全確保にも努めている。	○	御利用者1人1人の身体機能に合わせ、生活の場としての配慮を行ない、又危険防止の為、見守りを行ない支援に努めている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	御本人の心意を追求、配慮を行ないお尋ねし、状況に合わせて、環境整備に努めている。状態の変化に応じ混乱時その都度職員間で話し合いを行ない不安軽減に工夫する。	○	御本人の心身の変化に応じるよう工夫している。側に寄り添い不安感を持たれないようその都度受け入れる体制作りに努めね環境面の工夫も配慮している。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	プランター等に花を植えたり、畑のスペースを確保し、御利用者が日常楽しみを持たれるよう工夫している。ベンチを置き、外気浴されるよう支援している。	○	御利用者の馴染みの暮らし方に視点をおき要望を取り入れるようにしている。洗濯物干し、庭の手入れ、花植えの水やり、日向ぼっこ等に努めている。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
		○	②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

理念である「一期一会」の精神を職員が常に持ち、入居者一人ひとりに応じる。
安全安心な寄り添い「ケア」を大切に、常日頃から、家庭的な環境の中で、明るい、健康的な生活を送られるよう支援する。
また、ご家族・地域の方々との交流を密に、地域に根ざした関りある支援を精進していく。